

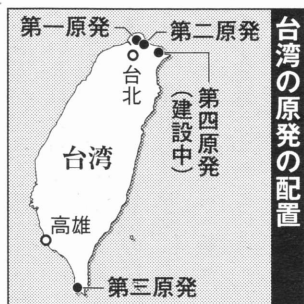
# 「3・11」きっかけに 反対運動に 火がついた

## 台湾ルポ



# 「日の丸原発」 トラブル続き

日本からインドやトルコ、ベトナムへの原発輸出が議論を呼んでいるが、最初の「日の丸原発」は台湾にある。2011年の稼働を目指していたが、トラブル続きで現在も稼働に至らず。福島第一原発の事故をきっかけに、反対運動にも火がついた。「人力社」代表で旅行ライターの中山茂大氏(44)が、台湾の現状をルポした。



台北市から東に約40キロ。新北市貢寮区の港町、福隆から車で10分ほど走ると、左手に緑色の巨大な箱のようなコンクリートの建造物が姿を現す。台湾電力が建設する「龍門発電所」だ。正式名称は「台湾電力公司第四核能発電廠」。一般的に「核四」と呼ばれる台湾第四の原発である。一般車が行き交う公道に面して立つ原子炉建屋を横目に、「核四」から最も近い市街地、塩寮に向かった。

繁華街の一角にある寺院の屋上に上がらせてもらった。街の後方に大きな煙突、その隣に、先ほど通り過ぎた緑色の建屋が見える。炉心まで、わずか1キロほど。あの建屋が吹き飛んだら、一瞬で放射能が飛散してくることだろう。「1号機は95%、2号機は92%完成していると言われています。いつ試運転が始まってもおかしくない」稼働に反対する「貢寮反核自救会」会長の呉文樟さん(56)は、建屋を指さして言う。

「核四」は日本のメーカーが海外に輸出した初の「日の丸原発」として知られる。使用する原子炉(改良型沸騰水型炉)は、アメリカのゼネラル・エレクトリック(GE)社が設計し、日立と東芝が製造したもので、柏崎刈羽原発6号機、7号機と同じタイプだ。1999年に建設が始まり、中華民国建国100年の節目である2011年に稼働を始める予定だった。しかし脱

写真は上が「核四」の原子炉建屋。下は左が「核四」の建設中止を求める立て看板。右は「3・11」後に過熱している反原発デモの様子(デモの写真は木曾恵氏、ほかはすべて中山氏撮影)